

## Risk factors associated with Barrett' s epithelial dysplasia

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2015-06-30<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 藤田, 美貴子<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/10470/31145">http://hdl.handle.net/10470/31145</a>                   |

様式 (6)

## 学 位 審 査

|  |            |       |        |
|--|------------|-------|--------|
| 学 位 番 号  | 乙 第 2859 号 | 氏 名   | 藤田 美貴子 |
| 審 査 委 員 会  | 主 査 教 授    | 立元 敬子 |        |
| 論文審査の要旨 (400 字以内)  |            |       |        |
| <p>バレット食道は腺癌の発生母地と考えられ、とくに特殊円柱上皮(SCE)が重要とされるが、細胞異型発現の危険因子は不明である。</p> <p>本研究では、上部内視鏡検査でバレット食道と診断した 115 例を対象に、生検病理組織像を SCE 型、胃噴門腺型、接合部型に分け、臨床的な評価項目を検討した。バレット食道では SCE 型が 56.5%で、異型腺管の発現率は 30.8%と有意に高かった。異型腺管発現の危険因子は単変量解析で①ピロリ非感染、②p53 蛋白の強発現、③過体重、④低拡張期血圧が有意だった。多変量解析では①、②、③、④、逆流性食道炎で有意差が認められた。</p> <p>バレット腺癌の早期発見には危険因子の①、②、④を有するハイリスク群を設定し、定期的な内視鏡検査によるサーベイランスシステムの構築が重要であることが示され、学術的価値の高い論文である。</p> |            |       |        |
| 本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]  |            |       |        |